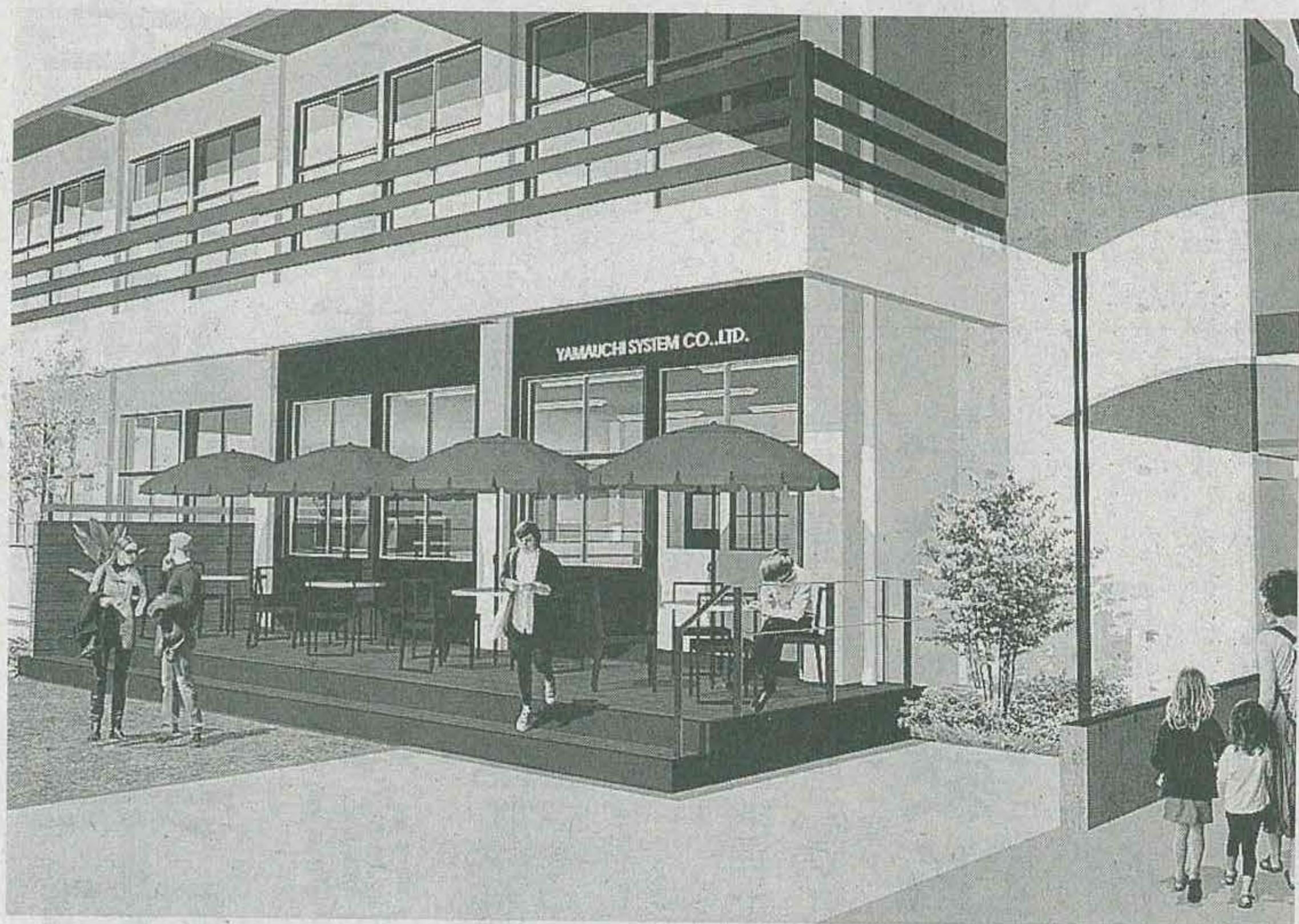


廃校舎事業所に“再生”へ

産業用機械の制御ソフトやロボットシステムなどを設計、受託開発している延岡市出北の「山内システム」（山内浩二代表）が、同市北方町の旧北方小校舎と旧北方幼稚園の園舎を活用した新たな事業所を開設した。廃校舎などを活用した企業立地は、同市で初めて。

延岡の旧北方小、幼稚園



旧北方小校舎などを活用した新事業所の外観イメージ
(山内システム提供)

地元雇用拡大に期待

旧北方小は2013年度に閉校し、旧北方幼稚園は17年度に閉園。市は廃校舎などの活用を通じて地域振興を図ろうと、18年12月から利用者を公募していた。新事業所の契約期間は10年で、賃料は年間26万円。設備工事は既に進んでおり、4月から操業する。

同社は1990年に創業し、従業員数は38人。これまで旭化成や大手自動車企業の関連会社などと取引してきた。制御ソフトやロボット技術の需要は年々高まっており、同社は業務拡大に向け、新たな作業所設置を模索していた。

建物の面積は約1120平方メートルで、3千万円をかけて改修し、作業スペースや研究開発室、カフェ風の社員休憩所などを設置。産業用ロボットのデモンストラクションや展示も行うという。2023年度までに新たに37人を雇用予定。来年度の売り上げは4億7千万円を見込み、23年度には6億8千万円まで拡大させたい考え。

20日には市役所で立地調印式があり、読谷山洋司市長が「新たな産業革命の拠点として期待している。北方の発展につなげたい」とあいさつ。

同市北方町出身の山内代表は「廃校活用という話題性を発信して雇用を拡大し、当社の技術を農業分野にも生かすことで生まれ故郷に貢献する」と抱負を述べた。

(木上友貴)

★「プレみや」にも掲載